

2. 第19回市民公開日

2009年10月25日(日)13:00から15:30まで市民公開がおこなわれた。内容は、林美里による講演「チンパンジーの発達研究と日々の暮らし」と放飼場・展示室の見学だった。参加者は60名。

3. オープンキャンパス・大学院ガイダンス

大学の学部生をおもな対象とし、大学院ガイダンスを兼ねた2009年度のオープンキャンパスを、2010年2月22日、23日に開催した。各分科の教員による講義、所内見学、各分科教員との懇談会、さらに大学院生・研究員等も参加した懇親会がおこなわれた。参加者は33名だった。

<プログラム>

2月22日(月)

開会の挨拶：松沢哲郎

大学院入試に関するガイダンス：半谷吾郎

講義1「人間性って何だろう」正高信男

講義2「化石の研究からなにがわかるのか」高井正成

所内見学1

講義3「動く遺伝子」古賀章彦

講義4「霊長類ポストゲノムの展望と課題」今井啓雄

講義5「感染症の霊長類モデル研究」明里宏文

各分科の教員との懇談会1

懇親会(夕食を兼ねた立食形式の懇親会で、教員や大学院生とのコミュニケーションを図った)

2月23日(火)

講義6「ニホンザルの人口変動と社会変動」半谷吾郎

講義7「類人猿とヒトの社会構造の進化」古市剛史

講義8「チンパンジーのここを探る」友永雅己

所内見学2

講義9「形態の語るもの」濱田穰

講義10「ヒトの脳は特別か？」中村克樹

講義11「霊長類脳科学の新しい展開」高田昌彦

各分科の教員との懇談会2

(文責：林美里)

VII. 自己点検評価委員会報告

平成21年度も、自己点検の一環として年報の冊子体作成とホームページ掲載を行った。年報の作成作業に際し、年報に掲載しない学会活動や社会教育、広報活動、各種委員会での社会還元活動など、その他の「業績」も含めて業績等データを集積しデータ・ベース化している。また、本学の評価委員会でとりまとめている各種の調査書類の霊長類研究所分のとりまとめを行った。「国立大学法人の中期目標期間の教育研究評価」に関連して「学部・研究科等の研究の「現況分析」に関する検証アンケート」、「国立大学法人の各年度終了時における附置研究所及び研究施設における「全国共同利用」の評価」に関わる資料としての「平成20年度研究活動等状況調査票」と「平成21年度研究活動等状況調査(抜粋)」、「H21年度中期計画進捗状況(11月回答分)」及び「特記事項(11月回答分)」、「第1期中期目標期間の教育研究の状況の評価における学部・研究科等の現況分析に係る資料の作成」に関わる「学部・研究科等の研究業績」の4つである。

自己点検評価委員会：渡邊邦夫(委員長)、古賀章彦、今井啓雄、友永雅己、松沢哲郎(所長)

(文責：渡邊邦夫)